

1. 開催概要

展覧会名	至上の印象派展 ビュールレ・コレクション	
開催施設名	会期	入場者数
国立新美術館	2018 年 2 月 14 日～2018 年 5 月 7 日	368,159 人 (開会式・内覧会を含む)
九州国立博物館	2018 年 5 月 19 日～2018 年 7 月 16 日	198,489 人 (開会式・内覧会を含む)
名古屋市美術館	2018 年 7 月 28 日～2018 年 9 月 24 日	213,665 人 (開会式・内覧会を含む)
●開催概要 ビュールレ・コレクションは、スイスの実業家エミール・ゲオルク・ビュールレ(1890～1956 年)が築き上げた、印象派絵画を中心とした約 600 点の西洋美術のコレクションである。ビュールレ・コレクションの中でも、印象派・ポスト印象派の作品は傑作中の傑作が揃い、そのコレクションの質の高さに、世界中の美術ファンから注目が集まっている。 今回、コレクション展としては 27 年ぶりの日本での開催となった。なお、ビュールレ・コレクションは 2020 年に、スイスのチューリヒ美術館に全作品が移管される予定のため、日本でコレクションの全貌が一堂にみられる最後の機会となった。本展では、絵画史上、最も有名な少女像ともいわれるルノワールの《イレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢(可愛いイレーヌ)》、近代美術の金字塔ともいえるセザンヌの《赤いチョッキの少年》、ファン・ゴッホの《日没を背に種まく人》や、縦 200×横 450cm の大作でスイス国外から一度も出たことのないモネの《睡蓮の池、緑の反映》などを含む、印象派を中心とした 64 点の作品を展示した。出品作品の約半数は日本初公開の作品である。 世界最高峰の印象派コレクションを東京、名古屋、福岡の会場で紹介し、広く国民に美術鑑賞の機会を提供した。		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

【展示作品の質・量の充実】

本制度の適用により、本コレクションの中でも特に重要なドガの《ピアノの前のカミュ夫人》とモネの《睡蓮の池、緑の反射》などの作品の借用料などに充当することができた。《ピアノの前のカミュ夫人》は閉館したプライベート美術館でも肖像画作品の中心的役割を担っていた作品である。《睡蓮の池、緑の反射》はこれまでスイス国外へ出たことがなく、今回が日本初公開となり、本展の最終章に特別に展示した。

【入場料の無料化・軽減等】

●国立新美術館

通常実施の中学生以下無料に加えて(8,227 人来場)、高校生の入場料無料化を、2018 年 2 月 14 日(水)～2 月 28 日(水)の休館日を除く、合計 13 日間実施した。

●九州国立博物館

一般区分の入場料を 100 円引き、大学生以下を一律 200 円引きにした。

●名古屋市美術館

一般、大学生区分の入場料を 100 円引き、高校生を 300 円引きした。高校生の入場料無料化を、2018 年 7 月 31 日(火)～8 月 31 日(金)の休館日を除く平日、合計 21 日間実施した。

【教育普及活動の充実】

ジュニアガイドを 9 万部制作し、東京展では、都内、千葉、神奈川、埼玉の小中学校、合計約 5,500 箇所に、3 部ずつ配布したほか、図書館約 700 館へ配布し、展覧会会場でも小・中学生へ配布を行った。名古屋展では、愛知県内の全小中学校約 1,400 校に、全児童・生徒数分約 63 万枚を配布した。岐阜県、三重県内の全小学校約 800 校にサンプルを送って、リクエストのあった 15 校に約 2,500 枚を配布した。福岡展では、ジュニアガイドとぬりえ付きチラシを作成し、太宰府市・福岡市の小学校 151 件に発送したほか、来場者を含め計 4 万 5 千部を配布した。小学生向けオリジナルシールも 5 千枚作成し、会場入り口で配布した。

各会場で記念講演会などを以下の通り開催した。

・国立新美術館

①記念講演会「コレクター、エミール・ゲオルク・ビュールレとその時代」

日程:2018 年 2 月 17 日(土)14:00～15:30

会場:国立新美術館 3 階講堂

講師:ルーカス・グルーア(E.G. ビュールレ・コレクション財団 館長)

参加者人数:125 名

②解説会

日程:2018 年 4 月 6 日(金)14:00～15:00

会場:国立新美術館 3 階講堂

講師:山田由佳子(国立新美術館主任研究員)

参加者人数:161 名

③解説会

日程:2018 年 4 月 14 日(土)14:00~15:00

会場:国立新美術館 3 階講堂

講師:山田由佳子(国立新美術館主任研究員)

参加者人数:141 名

・九州国立博物館

①講演会「印象派の至宝を楽しむ。ビュールレ・コレクションの名画の数々」

日時:5 月 19 日(土)午後 1 時~2 時 30 分

会場:九州国立博物館 1 階ミュージアムホール

出演:深谷克典(名古屋市美術館 副館長)

参加者:220 名

②印象派シネマナイト 映画「セザンヌと過ごした時間」

日時:5 月 24 日(木)午後 7 時~

会場:KBC シネマ

来場者:59 名

※上映前に、臺信祐爾(九州国立博物館特任研究員)によるトークを実施

③印象派シネマナイト「映画「ゴッホ 最後の手紙(吹替版)」

日時:5 月 31 日(木)午後 7 時~

会場:KBC シネマ

来場者:110 名

※上映前に、臺信祐爾(九州国立博物館特任研究員)によるトークを実施

④シネマカフェ

日時:6 月 26 日(火)午後 2 時 30 分~

会場:小倉昭和館

出演:臺信祐爾氏(九州国立博物館 学芸部特任研究員)

来場者:120 名

・名古屋市美術館

①記念講演会「エミール・ビュールレと大原孫三郎 東西の大コレクター」

日時:2018 年 8 月 5 日(日) 14:00

会場:名古屋市美術館 2 階講堂

講師:高階秀爾(大原美術館館長)

参加者:180 名

②解説会

日時:8 月 18 日(土)14:00~15:30

会場:名古屋市美術館 2 階講堂

講師:深谷克典(名古屋市美術館副館長)

参加者:180 名

③解説会

日時:9月15日(土)14:00~15:30

会場:名古屋市美術館 2 階講堂

講師:深谷克典(名古屋市美術館副館長)

参加者:180 名

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

ヒヤリハット事例も含め、事故は全くなかった。

4. 安全配慮に関する特別の対応

E.G.ビュールレ・コレクション財団の館長が事前に来日し 3 館を視察するなど、所蔵館、主催者、輸送社間で綿密に輸送方法については十分に協議した。国内輸送(東京～福岡、福岡～名古屋、名古屋～東京)は、財団側からの強い希望により、ノンストップで輸送を行ったため、2 名のドライバーの交代制で実施した。また特に距離が長い東京～福岡間、福岡～名古屋間に関しては、大阪にて新たにドライバー 2 名を入れ替えて、労働時間がオーバーしないように配慮した。また各トラックと伴走する警備車には無線機 1 台を所持し、走行時は無線で交信しながら走行中の安全管理を徹底した。

東京から福岡への作品輸送数日前に、台風の影響で九州道の一部が通行止めとなってしまったため、輸送会社と当初案とは異なる迂回ルートについても協議をした。なお実際には、輸送当日に通行止めは解除されたため、当初案のルートで無事に作品を輸送できた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

今までビュールレ・コレクションを中心とした展覧会は、ヨーロッパ以外でほとんど開催された実績がなく、日本では過去に1回(1990-91年に横浜美術館)しか実現していない。世界中からコレクション展開催のオファーが届く中、今回美術品補償制度の活用により、出品作品の約半数は日本初公開となる64点の貴重な作品の借用が実現できた。

中でも展覧会のメインビジュアルとして用いた《イレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢(可愛いイレーヌ)》は、来場者に非常に人気の高い作品だった。東京展と福岡展では、一般来場者に出品作品の中から好きな作品を選んでもらうアンケートを実施したところ、1位に選ばれた。「今までに見聞きしていた作品の本物がこれまで思っていた以上に、描いている人物のかわいらしさを強く訴えてくるものであった」、「小さな女の子の恥じらいや好奇心、ちょっとした晴れがましさが絵に表れていることに新鮮な驚きを感じました」などの感動の声が多く寄せられた。また絵のモデルとなったイレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢のひ孫などに取材を行い、壮絶な人生や、描かれた絵にまつわる話を新聞紙面において紹介し、大きな反響を呼んだ。

ファン・ゴッホ、モネ、ルノワールといった日本でも人気の高い印象派作家の傑作を揃えた世界有数のプライベート・コレクションを東京のみならず、福岡、名古屋で広く紹介した。結果3会場あわせて約78万人の来場者に美術鑑賞の機会を提供したことで、美術品補償制度の「国民が美術品を鑑賞する機会を拡大する」という目的を達成できたと考えている。

また、チラシや作品リスト、ジュニアガイドなどの印刷物や公式HP、会場入り口のメイン看板などに、美術品補償制度の適用を受けている旨を記載し、展覧会の来場者に対しても周知に努めた。

6 展覧会の収支決算書

主催者名 (共通経費・東京展) 国立新美術館、東京新聞、NHK、NHKプロモーション
(福岡展) 九州国立博物館、西日本新聞社、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州
(名古屋展) 名古屋市美術館、中日新聞社、NHK名古屋放送局、NHKプラネット中部

●収入

内 訳	決算額
展覧会収入・その他の収入	142,586 万円
共催者負担	5,456 万円
収入総額	148,042 万円

●支出

区分	決算額
企画準備等基本経費	93,607 万円
設営・運営等会場関係経費	54,435 万円
支出総額	148,042 万円